

大分短期大学 情報公表

(令和 5 年 6 月 23 日公表)

1. 教育研究上の基礎的な情報

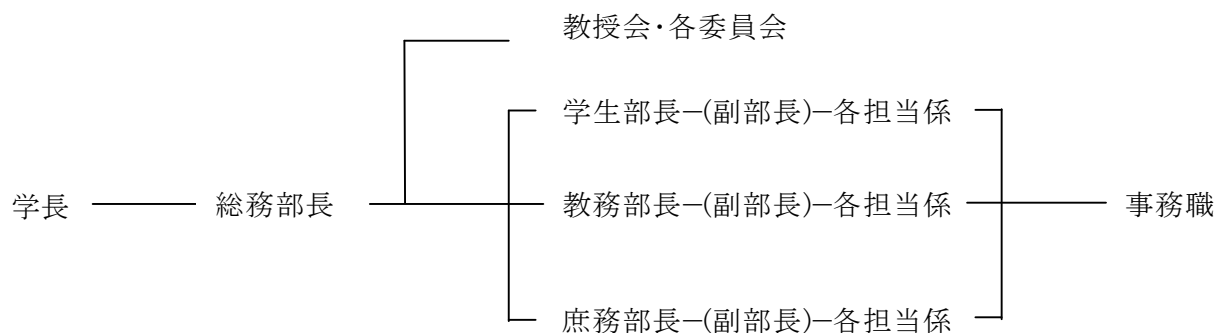
(1) 学部、学科、課程、研究科、専攻ごとの名称及び教育研究上の目的について

学科名	教育研究上の目的
園芸科	<p>本学の教育目的は、学則第 1 条に「高等普通教育の基礎の上にさらに広い一般教養と専門的学識を修め、深い知識と豊かな人間性を養い、もって国家及び地域社会の発展に貢献しうる社会人の育成を目的とする」と定められています。</p> <p>教育目標は、「農業・園芸の領域に集積された様々な知識や技術を修得し、関連の資格、認定等を取得して、豊かな発想力と実践力を身につけ、地域産業の健全な振興・発展をはかり、健康・長寿社会の実現のために活躍する人材を育成する」ことです。</p> <p>園芸科は、園芸学及び農学の教育研究を通じて農林業・環境・地域社会に広く貢献することを目的としています。本科は、生物生産・フラワーデザイン・造園・園芸療法に関する専門領域を広く学修し、国内外において活躍できる人材を養成します。</p>

(1)-2 教育研究上の基本組織に関すること

学科名	入学定員	収容定員
園芸科	40 名	80 名
修業年限：2 年		
所在地：〒870-8658 大分市千代町 3 丁目 3-8		

組織図



(2) 専任教員数について

令和5年5月1日現在

学科・ 専攻名	専任教員数				設置基準で定め る教員数		助手	〔ハ〕	備考
	教授	准教授	助教	計	〔イ〕	〔ロ〕			
園芸科	5	1	3	9	7 (3)		0	1	
(小計)	5	1	3	9	7 (3)		0	1	
〔ロ〕						2 (1)			
(合計)	5	1	3	9	7 (3)	2 (1)	0	1	

〔注意〕

1. 上表の〔イ〕とは短期大学設置基準第22条別表第1のイに定める学科の種類に応じて定める教員数をいう。
2. 上表の〔ロ〕とは短期大学設置基準第22条別表第1のロに定める短期大学全体の入学定員に応じて定める教員数をいう。
3. 上表の〔イ〕および〔ロ〕の欄の()は、短期大学設置基準第22条別表第1のイの備考第1号に定める教授数。
4. 上表の助手とは、助手として発令されている教職員をいう。
5. 上表の〔ハ〕とは、助手以外の者で短期大学全体もしくは学科等の教育研究活動に直接従事する教職員（事務職員を除く）をいう。

(3) 校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境

(3) - 1 校地・校舎について

校舎・校地一覧表

(令和5年5月1日現在)

	収容定員	校舎			校地			備考
		基準面積	現有面積	差異	基準面積	現有面積	差異	
大分短期大学	80人	2000 m ²	2209 m ²	209 m ²	800m ²	1894 m ²	1094 m ²	
併設								
その他								
計	80人	2000 m ²	2209 m ²	209 m ²	800m ²	1894 m ²	1094 m ²	

※基準面積とは短期大学設置基準等、各学校の設置基準で定める面積とする。

短期大学設置基準第31条の規程による短期大学の基準面積（基準面積を算出する計算式を含む）は農学関係100人までの場合は2000 m²である。本学の場合、短期大

学専用の校舎面積 2 2 0 9 m²、本学が保有する校舎の面積は設置基準の規定を充足している。

校舎は授業や学生生活のために常に清掃が行われ、学内全体は清潔な環境である。

短期大学設置基準第 3 0 条の第 1 項「短期大学における校地の面積（附属施設用地及び寄宿舍の面積を除く）は、学生定員上の学生一人当たり十平方メートルとして算定した面積とする。」から次の通り計算した(校地の面積＝学生定員数(＝収容定員)×10m²)。学生定員数(＝収容定員)＝園芸科収容定員 80 名×10m²＝8 0 0 m²

本学の校地基準面積は、収容定員 8 0 名で算出計算式により、8 0 0 m²となるこの基準に対して本学の校地面積は表のとおり、1 8 9 4 m²であり表に示すとおり、設置基準の規定を充足している。

その他、実験実習場総面積は 8 9, 8 0 5 m²である。

(3)－2 情報機器等の整備について

パソコン及び学内 LAN を整備している。教室の使用状況に応じて、液晶プロジェクター、テレビ、ビデオデッキ、DVDプレーヤー、スライド映写機、OHC、OHP、マイク、スピーカーなどを設置している。授業用の機器・備品の使用・点検は教務係が担当している。

コンピュータ台数と機種

令和 5 年 5 月 1 日現在

教具名	台数等
コンピューター（学生用デスクトップパソコン）	5 台（図書館）
コンピューター（学生用ノートパソコン）	20 台
コンピューター（教職員用デスクトップパソコン）	2 台
コンピューター（教職員用ノートパソコン）	4 台
カラープリンター（学生用）	1 台
モノクロプリンター（教職員用）	1 台
カラープリンター	1 台
学内 LAN (Wi-Fi)	同時接続可能端末台数 100 台
教育 DX パッケージ Google workspace for education	

(3)－3 校地、校舎の安全性、障害者対応、運動場、体育館、学生休息場所等について

(校地・校舎の安全性)

土地・建物上の安全性については平成 25 年 8 月に校舎の耐震工事を終え、安全性を担保している。防犯上の安全性については短期大学が保有する校地と校舎は学生や教職員の安全確保に対して警備会社に委託している。

(障害者への対応)

「大分短期大学における障害学生の修学支援等に関する要項」を整備し対応している。

(運動場・体育館)

平松学園の医療系各種専門校と大分東明高校、向陽中学校と共用している。

(3)－4 図書館・学習支援センターについて

本館 5 階のうち 3 階に図書館スペース (図書室) を設けている。延床面積 126.8 m² 席数は 54 席、利用者用コンピュータは 5 席である。

学習室は 5 階に 4 室あり、それぞれ 2 席の個室である。

図書館のパソコンではインターネットの利用ができ、学習や研究、就職活動に利用されている。無線 LAN も整備しており、学生個人のパソコンのインターネット接続、及び学内 LAN の利用が可能である。

(3)－5 本学への交通手段について

本学は、大分県大分市の中心地、JR 日豊線大分駅から徒歩 15 分に位置し、立地条件に恵まれた環境にある。

JR 日豊本線・・・JR 大分駅下車徒歩 15 分

バス (大分交通)・・・JR 大分駅より別府方面行きにて新川バス停下車、徒歩 3 分

タクシー・・・JR 大分駅より大分日赤病院前下車 (約 7 分)

(所在地)

〒870-8658 大分市千代町3丁目3番8号

TEL:097-535-0201 (代)

(地図)



(4) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用

令和5年度現行（単位 円）

	一年次		二年次	
	入学時	後期	前期	後期
入 学 金	240,000	—	—	—
授 業 料	285,000	285,000	285,000	285,000
施 設 費	65,000	65,000	65,000	65,000
演 習 費	80,000	80,000	80,000	80,000
小 計	670,000	430,000	430,000	430,000
合 計	1,960,000			

*この他、教科書、実習器材、オリエンテーションでの宿泊費等の代金が必要（60,000円程度）。また、各種資格取得や公務員受験のための準備講座を受ける場合は、その都度テキスト、教材などの実費が必要。

2. 修学上の情報等

(1) 教員組織、各教員が有する学位及び業績

(1) -1 教員組織

専任教員の年齢別教員数

(令和5年5月1日現在)

教員数	年齢ごとの専任教員数（学長を含む）						
	70以上	60～ 69	50～ 59	40～ 49	30～ 39	29以下	平均年齢
合計人数 (9人)	1	2	2	2	2	0	53.1
割合 (%)	11.1	22.2	22.2	22.2	22.2	0	100

専任教員等の職階別教員数

(令和5年5月1日現在)

教員数	性別ごとの専任教員数					
	学長	教授	准教授	助教	計	
男	1	3	1	3	8	9
女	0	1	0	0	1	
計	1	4	1	3	9	

(1)-2 教員組織、各教員が有する学位及び業績

学科	職名	氏名	学歴(学位)	専門分野																																								
園芸科	学長 (教授)	平松 大典	慶応義塾大学大学院(工学博士)	電気工学																																								
			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">業績</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">(学術論文等)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">(1) 電気学会論文誌掲載論文(筆頭者)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">① 2003年05月</td> </tr> <tr> <td colspan="2">「同期機過渡現象時の制動巻線回路飽和特性」</td> </tr> <tr> <td colspan="2">平松 大典, 平山 開一郎, 徳増 正, 上村 洋市, 石川 芳博, 岩井 明信</td> </tr> <tr> <td colspan="2">電気学会論文誌B(電力・エネルギー部門誌) Vol. 123 (2003) No. 5 624-630</td> </tr> <tr> <td colspan="2">②2003年12月</td> </tr> <tr> <td colspan="2">「界磁相互漏れリアクタンスの発電機動特性への影響」</td> </tr> <tr> <td colspan="2">平松 大典, 小柳 薫, 平山 開一郎, 上村 洋市, 徳増 正, 高島 幹生, 佐藤 利幸</td> </tr> <tr> <td colspan="2">電気学会論文誌B(電力・エネルギー部門誌) Vol. 123 (2003) No. 12 1495-1503</td> </tr> <tr> <td colspan="2">③2004年2月</td> </tr> <tr> <td colspan="2">「単相突発短絡試験による界磁相互漏れリアクタンスの推定とその影響」</td> </tr> <tr> <td colspan="2">平松 大典, 小柳 薫, 平山 開一郎, 上村 洋市, 徳増 正, 高島 幹生, 佐藤 利幸, 荒 隆裕</td> </tr> <tr> <td colspan="2">電気学会論文誌B(電力・エネルギー部門誌) Vol. 124 (2004) No. 2 251-258</td> </tr> <tr> <td colspan="2">④2004年6月</td> </tr> <tr> <td colspan="2">「界磁相互漏れリアクタンスを考慮した発電機モデルによる非同期投入現象の検討」</td> </tr> <tr> <td colspan="2">平松 大典, 小柳 薫, 平山 開一郎, 上村 洋市, 垣内 幹雄, 佐藤 利幸, 荒 隆裕</td> </tr> <tr> <td colspan="2">電気学会論文誌B(電力・エネルギー部門誌) Vol. 124 (2004) No. 6 835-842</td> </tr> <tr> <td colspan="2">⑤2004年12月</td> </tr> <tr> <td colspan="2">「界磁相互漏れリアクタンスを考慮した発電機モデルによる過渡現象の検討 (位相差条件における同期投入の考察)」</td> </tr> <tr> <td colspan="2">平松 大典, 上村 洋市, 小柳 薫, 平山 開一郎, 垣内 幹雄, 佐藤 利幸, 荒 隆裕</td> </tr> </table>	業績		(学術論文等)		(1) 電気学会論文誌掲載論文(筆頭者)		① 2003年05月		「同期機過渡現象時の制動巻線回路飽和特性」		平松 大典, 平山 開一郎, 徳増 正, 上村 洋市, 石川 芳博, 岩井 明信		電気学会論文誌B(電力・エネルギー部門誌) Vol. 123 (2003) No. 5 624-630		②2003年12月		「界磁相互漏れリアクタンスの発電機動特性への影響」		平松 大典, 小柳 薫, 平山 開一郎, 上村 洋市, 徳増 正, 高島 幹生, 佐藤 利幸		電気学会論文誌B(電力・エネルギー部門誌) Vol. 123 (2003) No. 12 1495-1503		③2004年2月		「単相突発短絡試験による界磁相互漏れリアクタンスの推定とその影響」		平松 大典, 小柳 薫, 平山 開一郎, 上村 洋市, 徳増 正, 高島 幹生, 佐藤 利幸, 荒 隆裕		電気学会論文誌B(電力・エネルギー部門誌) Vol. 124 (2004) No. 2 251-258		④2004年6月		「界磁相互漏れリアクタンスを考慮した発電機モデルによる非同期投入現象の検討」		平松 大典, 小柳 薫, 平山 開一郎, 上村 洋市, 垣内 幹雄, 佐藤 利幸, 荒 隆裕		電気学会論文誌B(電力・エネルギー部門誌) Vol. 124 (2004) No. 6 835-842		⑤2004年12月		「界磁相互漏れリアクタンスを考慮した発電機モデルによる過渡現象の検討 (位相差条件における同期投入の考察)」
業績																																												
(学術論文等)																																												
(1) 電気学会論文誌掲載論文(筆頭者)																																												
① 2003年05月																																												
「同期機過渡現象時の制動巻線回路飽和特性」																																												
平松 大典, 平山 開一郎, 徳増 正, 上村 洋市, 石川 芳博, 岩井 明信																																												
電気学会論文誌B(電力・エネルギー部門誌) Vol. 123 (2003) No. 5 624-630																																												
②2003年12月																																												
「界磁相互漏れリアクタンスの発電機動特性への影響」																																												
平松 大典, 小柳 薫, 平山 開一郎, 上村 洋市, 徳増 正, 高島 幹生, 佐藤 利幸																																												
電気学会論文誌B(電力・エネルギー部門誌) Vol. 123 (2003) No. 12 1495-1503																																												
③2004年2月																																												
「単相突発短絡試験による界磁相互漏れリアクタンスの推定とその影響」																																												
平松 大典, 小柳 薫, 平山 開一郎, 上村 洋市, 徳増 正, 高島 幹生, 佐藤 利幸, 荒 隆裕																																												
電気学会論文誌B(電力・エネルギー部門誌) Vol. 124 (2004) No. 2 251-258																																												
④2004年6月																																												
「界磁相互漏れリアクタンスを考慮した発電機モデルによる非同期投入現象の検討」																																												
平松 大典, 小柳 薫, 平山 開一郎, 上村 洋市, 垣内 幹雄, 佐藤 利幸, 荒 隆裕																																												
電気学会論文誌B(電力・エネルギー部門誌) Vol. 124 (2004) No. 6 835-842																																												
⑤2004年12月																																												
「界磁相互漏れリアクタンスを考慮した発電機モデルによる過渡現象の検討 (位相差条件における同期投入の考察)」																																												
平松 大典, 上村 洋市, 小柳 薫, 平山 開一郎, 垣内 幹雄, 佐藤 利幸, 荒 隆裕																																												

		<p>電気学会論文誌B(電力・エネルギー部門誌) Vol. 124 (2004) No. 12 1439-1445</p> <p>⑥2006年05月01日 「同期発電機のモデリングと負荷遮断特性の検討」 平松 大典, 上村 洋市, 小柳 薫, 垣内 幹雄, 平山 開一郎, 長野 進, 名 倉 良馬, 荒 隆裕 電気学会論文誌B(電力・エネルギー部門誌) Vol. 126 (2006) No. 2 209-216</p> <p>⑦2007年01月 「同期発電機制動巻線回路周波数特性と位相差投入の検討」 平松 大典, 上村 洋市, 小柳 薫, 平山 開一郎, 大高 徹, 垣内 幹雄, 椎 名 淳, 徳増 正, 藤田 真史, 荒 隆裕 電気学会論文誌B(電力・エネルギー部門誌) Vol. 127 (2007) No. 1 77-84</p> <p>⑧2009年1月 「大容量タービン発電機横軸リアクタンスの運転特性への影響」 平松 大典, 上村 洋市, 上元 慎二, 納本 淳司, 今井 岳彦, 垣内 幹雄, 長倉 謙, 藤田 真史, 大高 徹 電気学会論文誌B(電力・エネルギー部門誌) Vol. 129 (2009) No. 1 93-100</p> <p>⑨2011年01月 「大容量タービン発電機過渡現象時リアクタンス飽和の影響」 平松 大典, 上村 洋市, 十川 和真, 小林 雅司, 垣内 幹雄, 長倉 謙, 保 坂 一志, 上田 隆司, 大高 徹 電気学会論文誌B(電力・エネルギー部門誌) Vol. 131 (2011) No. 1 20-27</p> <p>⑩2015年11月 「同期機分数スロットによる振動・損失低減巻線方法の検討」 平松 大典, 十川 和真, 上田隆司, 藤田真史, 石塚博明, 大久保将史, 蜂谷秀行, 森淳 二, 野崎 大, 岩下大輔, 徳増 正 電気学会論文誌D(産業応用部門誌) Vol. 135 (2015) No. 11 1130-1137</p>
--	--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

		<p>⑪2016年01月 「大容量4極同期発電機励磁システム特性の検討」 平松 大典, 上村 洋市, 野崎 大, 向山 信治, 十川 和真, 柴田 雅彦, 新井田国臣, 鈴木 一浩 電気学会論文誌B(電力・エネルギー部門誌) Vol. 136 (2016) No. 1 1-7</p> <p>⑫2016年01月 「同期発電機界磁電流過渡特性の考察」 平松 大典, 上村 洋市, 野崎 大, 向山 信治, 鹿室 大, 十川 和真, 石 塚博明, 鈴木 一浩 電気学会論文誌B(電力・エネルギー部門誌) Vol. 131 (2016) No. 1 25-32</p> <p>(2) 電気学会論文誌掲載論文(共著)</p> <p>①2004年7月 「界磁相互漏れリアクタンスを考慮した発電機モデルによる動態安定度解 析」 小柳 薫, 平松 大典, 平山 開一郎, 上村 洋市 電気学会論文誌B(電力・エネルギー部門誌) Vol. 124 (2004) No. 7 947-955</p> <p>②2006年12月 「大容量円筒形同期機固定子巻線端部電磁力の研究」 長野 進, 徳増 正, 藤田 真史, 一文字 正幸, 関戸 忍, 平松 大典, 長倉 謙, 仁田 且三 電気学会論文誌D(産業応用部門誌) Vol. 126 (2006) No. 12 1608-1615</p> <p>③2007年01月 「大容量円筒形同期機固定子巻線端部振動の研究」 長野 進, 徳増 正, 藤田 真史, 井上 良之, 一文字 正幸, 片山 仁, 平松 大典, 仁田 且三 電気学会論文誌D(産業応用部門誌) Vol. 127 (2007) No. 1 17-25</p> <p>(3) 海外投稿 IEEE Transaction 2012年 IEEE Transaction Energy Conversion “A Study on Rotor Surface Losses in Small-to Medium Cylindrical</p>
--	--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

			<p>Synchronous Machine ITCNE4 Article DOI10.1109 TEC12.221877 Daisuke Hiramatsu , Tadashi Tokumasu, Masafumi Fujita ,Mikio Kakiuchi , Toru Otaka Osamu Sato Ken Nagasaka</p> <p>(4) 電気学会英文論文誌掲載論文(筆頭者) 2014年 IEEJ Journal of Industry Applications “ Study on Analysis Model for Transient Phenomena of Brushless Synchronous Generator” Vol.3 No.6 pp.414-421 Daisuke Hiramatsu ,Yoichi Uemura , Kazuma Tsujikawa ,Wataru Nakamura , Hidetoshi Sugimura ,Kenmei Shimanuki , KUnitomi Niida , Toru Otaka</p> <p>(5)海外投稿 IEEE Power Engineering Society (筆頭者) ①2003IEEE Power Engineering Society General Meeting 2004 June Tront “Analytical of Damper Saturation Characteristics on Synchronous Machine Transient Condition” D.Hiramatsu K.Hirayama T.Tokumasu Y.Uemura M.Takabatake K.Ishikawa,A.Iwai</p> <p>②2004IEEE Power Engineering Society General Meeting 2004 June Denver PESGM2004-000655 0-7803-8465-2/04/\$20.00 2004 IEEE “Estimation of Field Mutual Leakage Reactance in Synchronous Machine by Line-to-Line Sudden Short Circuit Test” , D.Hiramatsu,K.Koyanagi,K.Hirayama,Y.Uemura,M.Kakiuchi,T.Satoh,T. Otaka K.Nagasaka</p> <p>③2004 IEEE Power Engineering Society General Meeting 2004 June Denver PESGM2004-000656 0-7803-8465-2/04/\$20.00 2004 IEEE “Analytical Study on Synchronizing Phenomena using Generator Model with Field Mutual Leakage Reactance” , D.Hiramatsu,K.Koyanagi,K.Hirayama,Y.Uemura,M.Kakiuchi,T.Satoh, K.Nagasaka</p> <p>④2006 IEEE Power Engineering Society General Meeting 2006 Montreal 06GM0210 1-4244-0493-2/06/\$20.00 2006 IEEE ” Analytical Study on Generator Load Rejection Characteristic using</p>
--	--	--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

			<p>Advanced Equivalent Circuit”</p> <p>D.Hiramatsu,M.Kakiuchi,K.Nagakura,K.Koyanagi,K.Hirayama,S.Nagano, R.Nagura,K.Nagasaka</p> <p>⑤2007 IEEE Power Engineering Society General Meeting 2007 Tampa 07GM 0441 1-4244-1298-6/07/\$25.00 2007 IEEE “Estimation of Rotor Surface Losses in Small-to- Medium Cylindrical Synchronous Machine” Daisuke Hiramatsu, Tadashi Tokumasu, Masafumi Fujita , Mikio Kakiuchi , Toru Otaka , Osamu Sato , Ken Nagasaka</p> <p>⑥2008 IEEE Power Engineering Society General Meeting 2008 Pittsburgh 08GM 0568 “A Study on Quadrature Equivalent Circuit Model in Large Synchronous Machine” Daisuke Hiramatsu, Yoichi Uemura, Jyunji Okumoto, Shinji Uemoto, Takehiko Imai, Mikio Kakiuchi, Ken Nagaura, Toru Otaka , Masafumi Fujita, Ken Nagasaka</p> <p>⑦2009 IEEE Power Engineering Society General Meeting 2009 Calgary 978-1-4244-4241-6/09/ 2009IEEE “Effect of Quadrature Axis Reactance of Large Synchronous Cylindrical Machine on Operation ” Daisuke Hiramatsu, Yoichi Uemura,Junji Okumoto,Hitoshi Hosaka, Shinji Uemoto,Takehiko Imai,Mikio Kakiuchi,Ken Nagakura,Masafumi Fujita, Toru.Otaka,Ken Nagasaka</p> <p>⑧ 2010 IEEE Power Engineering Society General Meeting 2010 Minneapolis “Study of Saturation Characteristic of Equivalent Circuits for Cylindrical Synchronous Machine” Daisuke Hiramatsu,Yoichi Uemura, Kazuma Tsujikawa, Masashi Kobayashi,Hitoshi Hosaka,Mikio Kakiuchi,Ken Nagakura, Takashi Ueda. Toru Otaka,Ken Nagasaka**</p> <p>⑨2011 IEEE Power Engineering Society General Meeting 2011 Detroit 11GM 0561 “Study of Reactance Saturation in Transient Characteristic for Large Synchronous Machine”</p>
--	--	--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

		<p>Daisuke Hiramatsu, Yoichi Uemura, Kazuma Tsujikawa , Masashi Kobayashi, Mikio Kakiuchi, Ken Nagakura, Takashi Ueda, Toru Otaka, Ken Nagasaka</p> <p>⑩2012 IEEE Power Engineering Society General Meeting 2012 San Diego 12GM 0421 “Effect of Reactance Saturation on Transient and Stability for Cylindrical Synchronous Machine” Daisuke Hiramatsu, Yoichi Uemura, Masashi Kobayashi, Mikio Kakiuchi, Ken Nagakura, Toru Otaka, Ken Nagasaka</p> <p>(6)海外投稿 IEEE Power Engineering Society (共著者)</p> <p>①2005 IEEE Power Engineering Society General Meeting 2005 San Francisco PESGM2005—0222 0-7803-9156-X/05/\$20.00 2005 IEEE “Effects of Field Mutual Leakage Reactance in Rotor Circuit of Synchronous Generator on the Transient and Dynamic Behavior” S.Nagano,D.Hiramatsu,K.Hirayama,Y.Uemura,M.Kakiuchi,K.Koyanagi, T.Satoh, K.Nagasaka</p> <p>(7)その他国際学会(査読付)</p> <p>①2004ICEE2004 (International Conference on Electrical Engineering 2004) ICEE2004 Sapporo ICEE-279 ”Study on induced Voltage Occurred in Generator Field at Transient Condition using detailed Generator Model” D.Hiramatsu,K.Koyanagi,K.Hirayama,Y.Uemura,M.Kakiuchi,T.Satoh, K.Nagasaka</p> <p>②2004 ICEE (International Conference on Electrical Engineering 2004) ICEE2004 Sapporo ICEE-276 ”An Alternative Measurement Method of Field Mutual Leakage Reactance in Synchronous Machine” D.Hiramatsu,K.Koyanagi,K.Hirayama,Y.Uemura,M.Kakiuchi,T.Satoh, K.Nagasaka</p> <p>③2005 IEMDC (International Electric Machine and Drive Conference) IEMDC 2005 San Antonio 10395 (890-895) 0-7803-8987-5/05/\$20.00 2005IEEE “ A Study of Synchronous Machine Modeling about Synchronizing</p>
--	--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

			<p>Phenomena”</p> <p>M.Kakiuchi,S.Nagano,D.Hiramatsu,K.Koyanagi,K.Hirayama,Y.Uemura*, T.Satoh,K.Nagasaka</p> <p>④2006 ICEMS (International Conference Electric Machine and Systems) November 23–25,2006, Nagasaki Japan 06ICEMS 00092 “A Study on Characteristics of Material Variation of Rotor Wedge in Cylindrical Synchronous Generator”</p> <p>⑤2006 ICEM (International Conference Electric Machine) September 2–5 2006 Chania Creta Island GreeceICEM2006–OSA2_1 “Study on Frequency Characteristics of Synchronous Generator Damper Circuit” M. Kakiuchi, K. Nagakura, T. Otaka , S. Nagano, T. Tokumasu , M. Fujita,J. Shiina, H. Ito, H. Shimada, D. Hiramatsu, K. Nagasaka</p> <p>⑥2009 IEMDC (International Electric Machine and Drive Conference) “Influence of Rotor Wedge Material of Large Synchronous Machine on Electrical Characteristics” D.Hiramatsu, T.Imai, M.Kobayashi ,Y.Uemura, K.Nagakura , M.Kakiuchi T.Otaka, M.Fujita,H.Ito,K.Nagasaka</p> <p>⑦2012 ICEM (International Conference Electric Machine) 2–5 September 2012, Marseille, France ICEM2012FF–001406 “Study of Special Winding for Reduction of Space Flux Harmonics Caused by Fractional–Slot” K. Tsujikawa, T.Tokumasu, M.Kakiuchi, D.hiramatsu, T.Ueda. M.Fujita, K.Ikeda,M.Ichimonji, T.Otaka</p> <p>⑧2012 ICEMS (International Conference Electric Machine and Systems) 21–24 October 2012 Sapporo, Hokkaido, Japan “ Special Winding to Reduce Space Flux Harmonics Caused by Fractional–Slot” K. Tsujikawa, T.Tokumasu, M.Kakiuchi, D.hiramatsu, T.Ueda. M.Fujita, K.Ikeda,M.Ichimonji, T.Otaka</p> <p>⑨2013IEMDC (International Electric Machine and Drive Conference) 12–15 May 2013 Chicago, Illinois, USA IEMDC2013TS15.3 “Novel Interspersed Windings to Reduce Space Flux Harmonics Caused by</p>
--	--	--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

		<p>Fractional-Slot Synchronous Machine”</p> <p>D.hiramatsu, K.F.Suttrisna, T.Tokumasu, H.Ishizuka, M.Okubo,K. Tsujikawa, T.Ueda. H.Hachiya,T.Aso, T.Otaka</p> <p>⑩2013 ICEMS (International Conference Electric Machine and Systems) 26-29 October 2013 Busan Korea(South) ICEMS2013 SMD-0309 “study of Winding Method to Reduce Stray Loss and Stator Core Vibration of Synchronous Machine”</p> <p>D.hiramatsu, K.F.Suttrisna, T.Tokumasu, H.Ishizuka, M.Okubo,K. Tsujikawa, T.Ueda. H.Hachiya,T.Aso, T.Otaka</p> <p>(7)その他著書</p> <p>①1999年06月 「電動機の最新技術と今後の展望」平松 大典, 堺 和人 ターボ機械 Vol. 27 (1999) No. 6 355-361</p> <p>②電気技術者協会「電気技術者」誌 「同期機の基本原理と最近の技術」連載</p> <p>(1)2010年 2月 「短絡比と同期機の体格」 P20-24 (2)2010年 9月 「絶縁材料の進歩と同期機の体格」P44-49 (3)2011年 2月 「大容量タービン発電機と冷却方式」P34-38 (4)2011年 7月 「同期リアクタンスと単位法インピーダンス」P39-44 (5)2011年 11月 「同期機のベクトル図と電圧変動率」P14-21 (6)2012年 2月 「同期機のVカーブ・可能出力曲線」P28-37 (7)2012年 4月 「同期機の電機子反作用と電機子漏れリアクタンス」 P4-11 (8)2012年 8月 「三相突発短絡電流と等価回路」P40-46 (9)2012年 11月 「同期機2軸理論とリアクタンス」P24-32 (10)2013年 2月 「同期機の出力と負荷角」P32-38 (11)2013年 4月 「同期機の損失と効率」 P18-24 (12)2013年 7月 「同期機の磁気回路と磁気飽和」P20-27 (13)2013年 11月 「同期機の出力と制御」P23-29 (14)2014年 1月 「電力調相と同期発電機の進み力率運転」P32-40 (15)2014年 4月 「負荷遮断試験と同期機的主要な過渡現象」P20-27 (16)2014年 9月 「回転体としての同期機」P26-32 (17)2015年 2月 「同期機の制動巻線」P24-31 (18)2015年 9月 「同期併入と同期入れ」P33-40 (19)2016年 4月 「同期機の励磁方式」P38-47</p> <p>・特別依頼寄稿「続・貴重な体験」</p>
--	--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

		<p>2011年6月 「自分の世界の常識・電験問題による新たな発見」P15-23</p> <p>2016年5月 「誘導機と同期機に係わる Q&A」P</p> <p>(業歴)</p> <p>(1)特許</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内特許 2015年3月 特許第5710329号「回転電機の電機子巻線 ほか11件(全12件) ・海外特許 2016年欧州特許 EP2503673B1「Armature Winding of rotating electrical machine」 ほか1件(全2件) <p>(2)教育実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1996年～2016年 東京農工大学にて「電気機械製図」「CAD製図」 ・2011年～2015年 湘南工科大学にて「電気製図」 ・2008年～2015年 日本工業大学にて「電気製図」 <p>(3)社会における活動実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2002年～2006年 電機工業会 同期機技術専門委員会委員長 <p>(表彰)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2000年10月 献血金色有効賞受賞(献血回数 100回) ・2013年10月 International Conference on Electrical Machine and Systems Best Paper Award
--	--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

			大分県立玖珠農業高等学校 農林省園芸試験場	樹木医学、果樹園芸学
			業績	<p>(学術論文等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源(ヤブツバキ)を活かした佐賀関の里山再生と地域振興のための学生ワークショップの成果(大分短期大学研究紀要 第13号 2015) ・大分県内渋柿の分布及び脱渋に関する研究 ・ブドウ栽培の省力化ならび品質向上に関する研究 ・ブドウの新育成系統ならびに品種の地方適否に関する研究 ・デラウェア種の熟期調節に関する試験 ・大分県カボス産地育成に関する研究 ・西南暖地の中山間地におけるブルーベリー栽培品種選定に関する考察(園芸学会九州支部研究集録 第20号 2012) <p>(社会における活動等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大山町ウメ産地の育成(生産安定対策) ・庄内町ナシ産地の育成(生産団地の開発) ・庄内町阿蘇野地区(10集落)村づくり推進(平成11年度・村づくり部門 農林水産大臣賞受賞) ・アフリカマラウイ共和国地域振興プロジェクト形成調査 JICA 派遣 ・南米パラグアイ共和国 JICA 派遣 ・九重町ブルーベリー産地の育成(5年後・西日本一の産地規模達成) ・南米パラグアイ共和国・商工省一村一品運動アドバイザー JICA 派遣 ・大分農業文化公園・宇都宮大学農学部との連携・ハナモモに関する共同研究 ・大分農業文化公園「メンデルのブドウ」オリジナルワイン開発 ・大分農業文化公園「国際優秀つばき園認定」 ・NPO おおいた有機農業研究会 理事長
園芸科	特任教授	吉野賢一		

			佐賀大学農学部（農学士）	果樹園芸学
			業績	
			(学術論文等)	
			・宮本早生の果実品質に及ぼす環境要因について 園芸学会九州支部第30回大会 1990	
			・極早生温州の珠心胚実生に関する研究 園芸学会九州支部第31回大会 1991	
			・極早生温州新品種「おおいた早生」について 園芸学会九州支部研究収録 第4号 1996	
			・ミカンバエに対する防除薬剤の検討 九州農業研究 第68号 2006	
			・日中の生体および環境計測によるウンシュウミカンの 水ストレス程度の推定 園芸学研究 18別 1.19 2019	
			・ハウスミカンの垣根仕立てと開心自然形の垂直 プロファイルによる生産構造の比較 園芸学会九州支部研究収録 第27号 2019	
			・カンキツ「あすみ」果実の栽培条件や年次による 貯蔵性の差異 園芸学会九州支部研究収録 第27号 2019	
			・ハウスミカンの垣根仕立て樹の水収支について 日本気象学会九州支部 Ser. II. No28 2019	
			・カンキツ「大分果研4号」の無加温栽培における かん水処理が果実品質及び収量に及ぼす影響 園芸学会九州支部研究収録 第28号 2020	
			・アロメトリーによるハウスミカン垣根仕立ての 葉面積指数の推定 園芸学会九州支部研究収録 第28号 2020	
			・ Characterization of canopy structure for high-yield performance of greenhouse-grown satsuma mandarins using direct measurements and indirect estimations Journal of Agricultural Meteorology 2022.1.15	
			・中晩柑類のポリエチレン包装が果実に与える影響(大分短期大学研究 紀要 第20号(2) 2022))	
園芸科	教授	清末義信		

		<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 傾斜地ハウスミカン園土壌の実態解析 大分県柑橘試験場研究報告第 4 号 1988 ・ カンキツ新品種「おおいた早生」の特性 大分県柑橘試験場研究報告第 7 号 1997 ・ ミカンバエの生態解明と防除技術の確立 大分県農林水産研究指導センター研究報告第 1 号 2007 ・ ハウスミカンの垣根仕立てと開心自然形の垂直 プロファイルによる生産構造の比較 大分県農林水産研究指導センター研究報告第 6 号 2019 <p>(品種登録・特許)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1996 年 8 月 22 日登録 カンキツ「おおいた早生」 登録番号 5133 号 ・ 2007 年 10 月 12 日 ・ 「ゴマダラカミキリの性刺激剤」 特許 4023721 号 ・ 2010 年 11 月 12 日 「光学活性な 3-オキサビシクロ [3.3.0] オクタン骨格を有する化合物及びその使用」 特許 40621904 号
--	--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

			東京農業大学農学部農学科 (農学士)	園芸学・生物工学・土壌肥 科学
			業績	<p>(著書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業技術大系花卉編(農山漁村文化協会、共著) <p>(学術論文等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フレンチタラゴンの液体培養法における外植体の置床方法がシュート形成と不定根形成に及ぼす影響(日本農業教育学会誌 第53巻 別号2022) ・液体培養法によるフレンチタラゴン(<i>Artemisia dracunculus</i> L.)の大量増殖に関する研究(大分短期大学研究紀要 第20号(2) 2022)) ・iPadOS アプリケーションソフトウェア“ColorMeter RGB Colorimeter”を用いた可給態リン酸の簡易定量分析(日本農業教育学会誌 第52巻 別号2021) ・2019年度入学生の保護者対象アンケート結果(大分短期大学研究紀要第18号 2019) ・「おおいたの大地でつくる秋やさい」講座の実施結果(大分短期大学研究紀要第17号 2018) ・大分短期大学専任教員のアクティブラーニングについての意識と実施状況(大分短期大学研究紀要第16号 2017) ・プレゼンテーションとグループワークを組み合わせたアクティブラーニングの事例研究(大分短期大学研究紀要第15号 2017) ・平成27年度大分短期大学生の学修・生活実態調査結果報告(大分短期大学研究紀要第14号 2016) ・STATE-TRAIT ANXIETY(SATI)日本語版を用いた園芸作業の状態不安低減効果の検証と教材化(日本農業教育学会誌 第46巻 別号 2015) ・大分短期大学における教育の質的変換を推進するために～平成26年度 学生の学修・生活実態調査結果を踏まえて～(大分短期大学研究紀要第13号 2015) ・学生が教師役を務める授業の学習に及ぼす効果(大分短期大学研究紀要第13号 2015) ・農業系短期大学の農場実習(野菜)における学生主体型授業の試行(日本農業教育学会誌 第45巻 別号 2014) ・テフロンホモジナイザーを用いたミニトマト果実のリコピン定量法(大分短期大学研究紀要第12号 2014) ・丸型ショベルによる断根処理がミニトマトの果実重と果実糖度に及ぼす影響(園芸学会九州支部研究集録 第21号巻 2013) ・ミニトマト栽培における定植方法の違いが作業効率と生育・品質に及ぼす影響(園芸学会 園芸学研究第9巻別冊2 2010)

		<ul style="list-style-type: none"> ・学生が教師役を務めるプレゼンテーション型授業の試行(園芸学会 園芸学研究第9巻別冊2 2010) ・介護従事者および学生における園芸療法体験の意識調査(日本農業教育学会誌 第34巻別号) ・未熟胚由来カルスによるストックの増殖(第3報)再生植物体の生育開花特性(園芸学会雑誌 第65巻別冊2) ・未熟胚由来カルスによるストックの増殖(第2報)植物体形成、馴化に及ぼす寒天2段階培養法における第1培養期間の影響(園芸学会雑誌 第65巻別冊1) ・未熟胚由来カルスによるストックの増殖(園芸学会雑誌 第64巻別冊2) <p>(特許)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストックの組織培養苗の形成方法(特許第2849990号) ・ストックの不定胚作出方法及び増殖方法(特許第2963301号)
--	--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

園芸科	教授	宮原佳代	九州大学農学部 同大学院農学研究科園芸学講座修士課程修了(農学修士)	花卉装飾学・花卉園芸学
			業績	
			(学術論文等) ・学生フラワーデザインコンテスト「めじろんカップ」への出展及び受賞(大分短期大学研究紀要 第12号 2014) ・切り花ハボタンの栽培技術に関する研究 第1報 栽培ポットの大きさが切り花ハボタンの生育に及ぼす影響(大分短期大学研究紀要 第12号 2014) ・丸型シヨベルによる断根処理がミニトマトの果実重と果実糖度に及ぼす影響(園芸学会九州支部研究集録 第21号巻 2013) ・ミニトマト栽培における定植方法の違いが作業効率と生育・品質に及ぼす影響(園芸学会 園芸学研究第9巻別冊2 2010) ・学生が教師役を務めるプレゼンテーション型授業の試行(園芸学会 園芸学研究第9巻別冊2 2010) ・大分県学生フラワーデザイン展(大分短期大学研究紀要 第11号) ・西日本各県の農業系高校の現状(日本農業教育学会誌 第38巻別号) ・幼稚園児の農業体験—米作り(代かきと田植え)—(日本農業教育学会誌(2004)第 35 巻別号) ・介護従事者および学生における園芸療法体験の意識調査(日本農業教育学会誌 第34巻別号) ・農業の発展方向を自ら開拓する能力を備えた学生の教育(日本農業教育学会誌 第34巻別号)	

			東京農業大学地域環境科学部 造園科学科 同大学院農学研究 科造園学専攻博士前期課程 修了（造園学修士）	造園樹木学
			業績	
園芸科	准教授	鍵和田又一	<p>(学術論文等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大分県に分布するヤブツバキ古木(大分短期大学研究紀要 第 19 号 2020 共著) ・大分市高田輪中の“くね”の水害防止効果に関する事例研究(大分短期大学研究紀要 第 18 号 2020 共著) ・大分市佐賀関のヤブツバキ第 5 報 AFLP 分析によって明らかになった古木の由来(大分短期大学研究紀要 第 15 号 2017 共著) ・大分市高田輪中の水害防災木として現存するヤブツバキ古木(大分短期大学研究紀要 第 15 号 2017 共著) ・大分市佐賀関のヤブツバキ第 1 報古木の分布(大分短期大学研究紀要 第 14 号 2016 共著) ・大分市佐賀関のヤブツバキ第 2 報古木の推定樹齢(大分短期大学研究紀要 第 14 号 2016 共著) ・大分市佐賀関のヤブツバキ第 3 報古木の花色(大分短期大学研究紀要 第 14 号 2016 共著) ・大分市佐賀関のヤブツバキ第 4 報関崎半島の植生調査(大分短期大学研究紀要 第 14 号 2016 共著) ・マダケ林の被害(大分短期大学研究紀要 第 13 号 2015) ・造園技法を用いたインドアガーデニング 第 1 報 インドアガーデン制作上の問題点(大分短期大学研究紀要 第 12 号 2014) ・ミニトマト栽培における定植方法の違いが作業効率と生育・品質に及ぼす影響(園芸学会 園芸学研究第 9 巻別冊 2 2010 共著) ・学生が教師役を務めるプレゼンテーション型授業の試行(園芸学会 園芸学研究第 9 巻別冊 2 2010 共著) ・花いっぱいおもてなしガーデニング大会(大分短期大学研究紀要 第 11 号) ・西日本各県の農業系高校の現状(日本農業教育学会誌 第 38 巻別号 共著) ・ソメイヨシノの健康状態と樹幹内における菌類の動態(Vol. 9 No.1 (2005) 樹木医学研究) ・ソメイヨシノの樹勢と樹幹内における菌類の動態(Vol. 8 No.1 (2004) 樹木医学研究) ・ソメイヨシノの樹勢と樹幹内における菌類の動態(Vol. 7 No.1 (2003) 樹木医学研究) 	

			<p>・ソメイヨシノの健全度合～東京農業大学世田谷キャンパスを事例とした～(Vol. 6 No.1 (2002) 樹木医学研究)</p> <p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・202 年度卒業生に対する卒業生アンケート結果(大分短期大学研究紀要 第 21 号 2022) ・2020 年度卒業生に対する卒業生アンケート結果(大分短期大学研究紀要 第 20 号 2021) ・2019 年度卒業生に対する卒業生アンケート結果(大分短期大学研究紀要 第 20 号 2021) ・2018 年度卒業生に対する卒業生アンケート結果(大分短期大学研究紀要 第 18 号 2019) ・2017 年度卒業生に対する卒業生アンケート結果(大分短期大学研究紀要 第 17 号 2018) ・2016 年度卒業生に対する卒業生アンケート結果(大分短期大学研究紀要 第 16 号 2018) ・2015 年度卒業生に対する卒業生アンケート結果(大分短期大学研究紀要 第 15 号 2017) ・平成 27 年度(2015)卒業3年後の卒業生対象アンケート(大分短期大学研究紀要 第 14 号 2016) ・2013 年度卒業生に対する卒業生アンケート結果(大分短期大学研究紀要 第 13 号 2015)
--	--	--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

			佐賀大学大学院 (農学士)	園芸学
			業績	
園芸科	助 教	橋 本 裕 輝	(学術論文等) Study on Non-destructive Evaluation Methods for Defect Pods for Green Soybean Processing by Near-Infrared Spectroscopy (農業機械学会誌 70 19-20 2008 年) ・丸型ショベルによる断根処理がミニトマトの果実重と果実糖度に及ぼす影響 (園芸学会九州支部研究集録 第21号巻 2013) ・有機質肥料がサツマイモの生育および収量に及ぼす影響 (大分短期大学 研究紀要 14 号・平成 27 年 3 月 31 日) ・プレゼンテーションとグループワークを組み合わせたアクティブラーニングの事例 (大分短期大学 研究紀要 15 号・平成 28 年 3 月) ・亜リン酸肥料が寝かせ植えたトマトの生育に及ぼす影響 (大分短期大学研究紀要第 19 号 2021.3.31) ・発泡スチロールをエサとしたカブトムシの幼虫の糞の有機質肥料への検討 (大分短期大学研究紀要第 20 号(2) 2022.3.31) (報告) ・学生による授業評価(平成 29 年度) (大分短期大学研究紀要第 16 号 2017.3.31) ・学生による授業評価(平成 30 年度) (大分短期大学研究紀要第 17 号 2018.3.31) ・学生による授業評価(令和 1 年度) (大分短期大学研究紀要第 18 号 2020.8.31) ・学生による授業評価(令和 2 年度) (大分短期大学研究紀要第 20 号 2021.8.31) ・学生による授業評価(令和3年度) (大分短期大学研究紀要第21号 2022.8.31)	

			川崎医療福祉大学 医療技術学部リハビリテーション 学科作業療法専攻 (リハビリテーション学士)	作業療法学
			業績	
園芸科	助教	小石鉄兵	<p>(著書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園芸学第2版 金山喜則, 西山 学, 田淵俊人, 加藤一幾, 執行正義, 元木 悟, 高田大輔, 古藤田信博, 立澤文見, 鈴木克己, 安場健一郎, 山内直樹, 菅谷純子, 居城幸夫, 小石鉄兵 (担当:分担執筆, 範囲:第10章 SDGsと園芸, P271~P281,P297 練習問題) 文永堂出版 2023年2月 (ISBN: 9784830041440) <p>(学術論文等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクアポニックス装置における園芸福祉要素の検討と導入に向けた課題 (大分短期大学研究紀要第20号(2)) ・園芸療法普及活動の試み (大分短期大学研究紀要第19号) ・プレゼンテーションとグループワークを組み合わせたアクティブラーニングの事例研究(共著) (大分短期大学研究紀要第15号) <p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度 大分短期大学生の学修・生活実態調査結果報告(単著) (大分短期大学研究紀要第21号) ・令和2年度 大分短期大学生の学修・生活実態調査結果報告(単著) (大分短期大学研究紀要第20号) ・大分短期大学生による短期大学士力修得の自己評価(単著) (大分短期大学研究紀要第18号) ・令和1年度 大分短期大学生の学修・生活実態調査結果報告(単著) (大分短期大学研究紀要第18号) ・平成30年度 大分短期大学生の学修・生活実態調査結果報告(単著) (大分短期大学研究紀要第17号) ・平成29年度 大分短期大学生の学修・生活実態調査結果報告(単著) (大分短期大学研究紀要第16号) ・平成28年度 大分短期大学生の学修・生活実態調査結果報告(単著) (大分短期大学研究紀要第15号) <p>(学会発表など)</p>	

		<ul style="list-style-type: none"> ・第 13 回 日本園芸療法学会 未来会議「九州ブロック会議での報告:園芸療法への取り組み実践について」 ・レイズドベッド作成過程を通して得られる教育的効果の利用(単著) (第 8 回日本園芸療法学会 2015 年大会 12.5~6) ・大分県作業療法協会 全体研修会 「診療報酬のねらい! ~作業療法士に期待されていることとは?~」(平成 20 年) ・南大分中学校(羽屋地区) 地区PTA懇談会 「親子で考えたい身体のこと~脳卒中・リハビリ~」(平成 19 年) ・第 12 回 大分県作業療法学会 「家族教室の企画起案から現在に至るまで」(平成 19 年) ・第 11 回 日本病院脳神経外科学会 「家族教室」を通して学んだ作業療法士としての役割 ~1 年間の反省と今後の課題~」(平成 18 年) ・第 10 回 日本病院脳神経外科学会 「入院患者と家族へのアンケート調査で得た課題に対する取り組みに~『家族会』の企画起案に至るまで~」(平成 17 年) ・第 9 回 大分県作業療法学会 「学童期に脳血管障害を呈した症例を通して学んだこと~症例・家族の心理変化を振り返って~」(平成 16 年) <p>(業歴)</p> <p>令和元年~ 早稲田大学 社会科学総合学院 先端社会科学研究所 招聘研究員</p>
--	--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

			宮崎大学農学部食料生産科学 科（農学士）	畜産草地学
			業績	
園芸科	助教	小野 宣幸	(学術論文等) ・大分県で飼養されている馬について ～飼養頭数及び用途の推移・提言～ (大分短期大学研究紀要第 21 号(2) 2023.3.31) ・競馬と植物における関係性の考察 (大分短期大学研究紀要第 19 号 2021.3.31) (報告) ・学生による授業評価(令和 3 年度) (大分短期大学研究紀要第 21 号 2022.8.31) ・学生による授業評価(令和 2 年度) (大分短期大学研究紀要第 20 号 2021.8.31) ・学生による授業評価(令和 1 年度) (大分短期大学研究紀要第 18 号 2020.8.31) ・学生による授業評価(平成 30 年度) (大分短期大学研究紀要第 17 号 2018.3.31)	

(2) 入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在籍者数、卒業（修了）者数、進学者数、就職者数

(2)－1 入学者に関する受入方針

【入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）】

本学は、次のような資質・能力を持つ人を求めます。

- (1) 農業・園芸の分野に対して深い関心を持ち、学んだことを活かして将来社会で活躍したいという目的意識と向上心がある人
- (1) それぞれの目標に向かって意欲的に学習に取り組もうとする熱意と実行力がある人
- (2) 農業・園芸分野の基礎をなす理科等の基礎学力を備えている人
- (3) 自分の考えを的確に伝えるための表現力とコミュニケーション力を身につけている人

本学の入学者選抜では、個別学力検査や面接、提出された書類等で「学習意欲」、「志望分野の資格や仕事の理解」、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」などを総合的に判断して選抜します。

具体的には、学校推薦型選抜では面接・小論文・提出された書類で、一般選抜（個別選

抜型)では面接・個別学力検査・提出された書類で、一般選抜(大学入学共通テスト利用型)では大学入学共通テストの成績・提出された書類で、総合型選抜では課題レポート・面接・提出された書類で、社会人選抜では面接・小論文・提出された書類で選抜します。

(2)-2 入学者数、収容定員、在籍者数

(令和5年5月1日現在)

学科名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
園芸科	入学定員	40	40	40	40	40	40	40	40
	入学者数	34	33	48	38	41	46	51	51
	入学定員充足率(%)	85	82	120	95	102	115	127	127
	収容定員	80	80	80	80	80	80	80	80
	在籍者数	71	66	81	85	79	86	97	100
	収容定員充足率(%)	88	82	101	106	99	107	121	125

学科名		31年度 R1年度	2年度	3年度	4年度	5年度			
園芸科	入学定員	40	40	40	40	40			
	入学者数	40	42	30	24	34			
	入学定員充足率(%)	100	105	75	60	85			
	収容定員	80	80	80	80	80			
	在籍者数	92	82	70	52	58			
	収容定員充足率(%)	115	102	87	65	72			

*充足率：小数点以下第1位切り捨て

(2)－3 卒業（修了）者数、進学者数、就職者数

(令和5年5月1日現在)

学生数		年度					
		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
園芸科	卒業生数	33	32	46	38	45	40
	進学者数 (うち四年制大学編入学)	13 (13)	12 (12)	20 (20)	22 (21)	24 (22)	25 (23)
	就職者数 (うち専門職への就職)	20 (14)	17 (16)	23 (16)	16 (15)	20 (18)	15 (12)

学生数		年度				
		30年度	1年度	2年度	3年度	4年度
園芸科	卒業生数	48	52	40	40	28
	進学者数 (うち四年制大学編入学)	23 (21)	21 (17)	22 (21)	22 (21)	14 (14)
	就職者数 (うち専門職への就職)	23 (21)	31 (25)	14 (14)	15 (11)	13 (12)

注) 専門職とは農業系公務員、生花店、園芸店、種苗会社、造園会社、医療福祉施設、JA、食品会社、就農、その他農業関連企業へ就職した者をいう。

(3) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画（シラバス又は年間授業計画の概要）

本学ホームページの情報公表サイトから閲覧が可能
 (「大分短期大学講義要項（シラバス）R5年度」)

(4) 修学の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準（必修・選択・自由科目別の必要単位修得数及び取得可能学位）

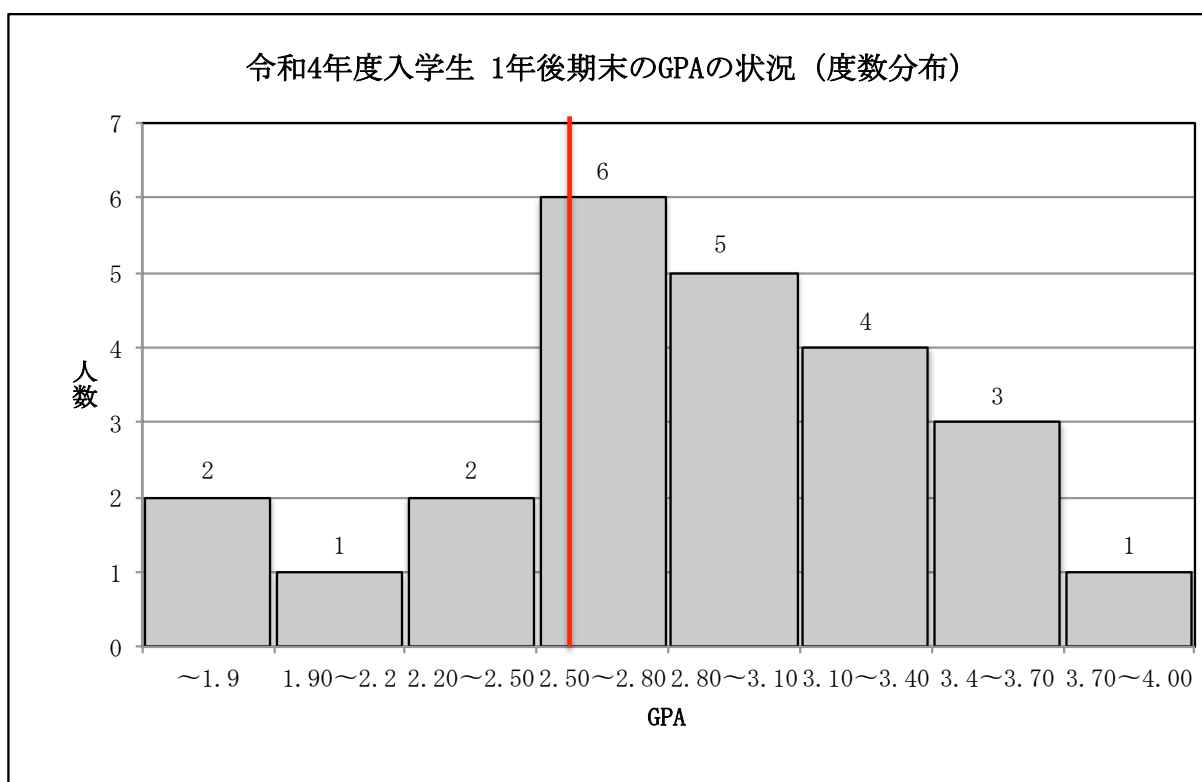
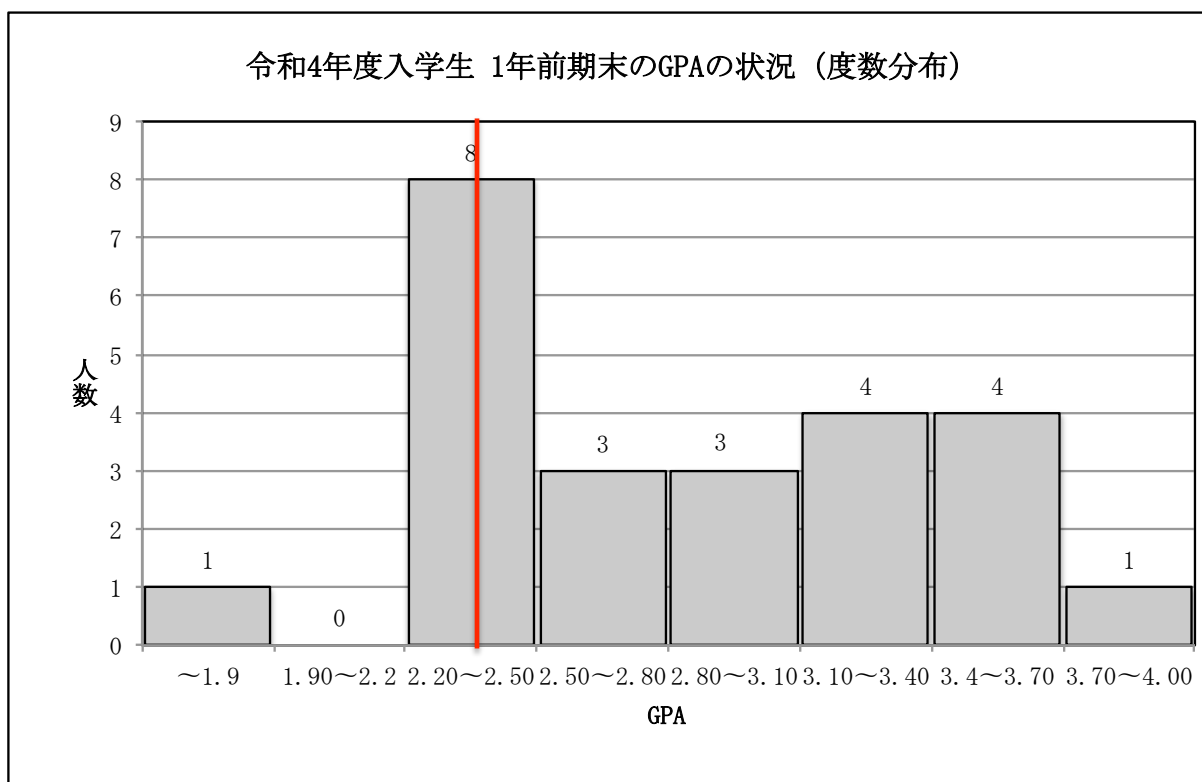
(4)－1 学修の成果に係る評価について

単位認定は、学則及び履修規則に基づいて担当教員の責任において行われている。評価は、講義科目から演習・実習科目まで多様な科目があるので、それぞれの授業科目の形態によって評価方法が異なっている。講義形式の授業科目の単位認定は、前期・後期末の定期試験等を実施して行われているが、期末試験と併せて受講態度、小テスト、レポート、課題等を各科目の学習成果に照らし合わせて評価・認定を行っている。また、成績をはかる基準として GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度を導入している。これまでの成績評価と併用することで、量的・質的評価が可能となっている。各学生の GPA は履修指導の他、奨学生選考、就職推薦者選考、編入学入試における学長推薦者選考、学業奨励賞受賞者選考等の参考データとして利用している。

本学の卒業認定については、学則及び、履修規則、ディプロマポリシーに定める通り、「通算して2年以上在学し、62単位以上の単位を修得した者（学習成果に裏付けら

れた科目を修得して所定の単位要件を満たした者)」に学長が卒業を認定し、短期大学士（園芸学）の学位記を授与する。

令和4年度入学生の成績分布（GPA）は以下の通りである。



(4) - 2 卒業認定について

本学の卒業認定については、学則及び、履修規則、ディプロマポリシーに定める通り、「通算して2年以上在学し、62単位以上の単位を修得した者（学習成果に裏付けられた科目を修得して所定の単位要件を満たした者）」に学長が卒業を認定し、短期大学士（園芸学）の学位記を授与する。ただし、一般教養科目のうち「教養演習Ⅰ」「教養演習Ⅱ」については卒業要件単位に含めない。

(4) - 3 取得可能学位について

取得可能学位は、「短期大学士（園芸学）」である。

(5) 学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援

(5) - 1 修学に係る支援について（入学前の支援について）

本学の建学の精神、および教育目標・目的は、入学案内パンフレットに学長メッセージとして記載されている。また、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーについては、入学案内パンフレットや入学者選抜要項に明示し、あわせて本学のホームページにも掲載している。入学志願者や入学手続き者に対しては入学案内のほか、月に1度発行しているニューズレターや、資格認定取得についての案内、実習や講義で必要な準備物などの情報を送付すること、また、トピックスや学則をはじめとした各種規程、教育研究上の基礎的な情報などの各種情報をホームページに掲載することで入学後の授業や学生生活についてイメージしやすくなるよう努めている。また、入学手続き者に対しては入学前に英語（TEOIC）の学習指導を行っている。

卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

本学の建学の精神に基づいた教育目的と教育目標を実現するために、大分短期大学では学習成果と学習成果を踏まえた短期大学士力を定めています。短期大学士力の獲得を学位授与の方針としています。

学習成果に裏付けられた科目を修得して所定の単位取得要件を満たした人には、教授会の審議を経て、学長が卒業を認定し、短期大学士（園芸学）の学位記を授与します。

園芸科における学習成果（大分短期大学の短期大学士力）

本学の建学の精神の基に、以下の学習成果を定めています。学生は在学中にこれらの学習成果を獲得するものとします。

- 1) 社会科学と自然科学に関する基礎的な知識を修得している（一般教養知識）
- 2) 社会科学と自然科学に関する基礎的な技能を修得している（一般教養技能）
- 3) 専門分野に関する基礎的な知識を修得している（基礎的専門知識）
- 4) 専門分野に関する基礎的な技能を修得している（基礎的専門技能）
- 5) 専門分野に関する応用的な知識を修得している（応用的専門知識）

- 6) 専門分野に関する応用的な技能を修得している（応用的専門技能）
- 7) 倫理観や社会的責任など生活や仕事に必要な基礎知識を修得している（社会的基礎知識）
- 8) 多様な他者を理解し協調・協働して課題に取り組むことができる（多様性・協働性）
- 9) 自ら課題を立て、課題解決に向けて計画し取り組むことができる（主体性・思考力・判断力）
- 10) 他者にわかりやすく且つ的確に物事を伝えることができる（表現力）

カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

ディプロマポリシーに掲げた学習成果を身につけた人材を育成するため、以下の方針の下にカリキュラム編成を行う。

- 1) 一般教養知識と一般教養技能、社会的基礎知識、及び多様性・協調性を獲得させるため、一般教養科目を編成する。
- 2) 基礎的専門知識、基礎的専門技能、応用的専門知識、及び応用的専門技能を獲得させるため、農業・園芸分野に関する専門科目及び専門演習・実習科目を編成する。
- 3) 主体性・思考力・判断力及び表現力を獲得させるため、園芸研究（卒業論文）を必修とする。

アドミッションポリシー（入学者受入方針）

本学は次のような資質・能力をもつ人を求めます。

- 1) 農業・園芸の分野に対して深い関心を持ち、学んだことを活かして将来社会で活躍したいという目的意識と向上心がある人
- 2) それぞれの目標に向かって意欲的に学習に取り組もうとする熱意と実行力がある人
- 3) 農業・園芸分野の基礎をなす理科等の基礎学力を備えている人
- 4) 自分の考えを的確に伝えるための表現力とコミュニケーション力を身につけている人

本学の入学者選抜では、個別学力検査や面接、提出された書類等で「学習意欲」、「志望分野の資格や仕事の理解」、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」などを総合的に判断して入学者を選抜します。

具体的には、学校推薦型選抜では面接・小論文・提出された書類で、一般選抜（個別選抜型）では面接・個別学力検査・提出された書類で、一般選抜（大学入学共通テスト利用型）では大学入学共通テストの成績・提出された書類で、総合型選抜では課題レポート・面接・提出された書類で、社会人選抜では面接・小論文・提出された書類で選抜します。

(5)－2 修学に係る支援について（入学後の支援について）

入学者に対しては、学習、学生生活のために入学後、二日間にわたりオリエンテーションを行い、その中でシラバスなど教科目の説明、資格取得についての説明、学生自身の進路などについて、適切な指導を行っている。さらに、学生担当職員による奨学金制度と手続きに関するガイダンスを行っている。また、保護者については入学式の当日に、本学園

と本学の教育方針や園芸科で学ぶ内容、資格取得の方法や費用、海外研修等について説明を行っている。また、ニュースレターを毎月保護者に送付し、資格取得や特別講義、学内の行事などを伝達し、理解を得ている。

科目選択のためのガイダンスは、入学時のオリエンテーション合宿、また後期開講前のガイダンスで学年ごとに実施している。「学生便覧」や「シラバス」を活用しているため、理解はできているようであるが、ガイダンスの個別相談の際に、講義履修や取得資格について迷っている学生の相談に応じて、将来希望する進路に必要な科目、資格についてのガイダンスを丁寧に行っている。

基礎学力が不足している学生や進度の早い学生については、ゼミナール制度により少人数教育を行っており、その中で英検、漢検等の検定試験受験を含め、個別に指導を行っている。

また、将来、公務員や就職、4年制大学への編入学を希望する学生に対しては、教養科目の学力向上のために、平日（水曜日を除く）の放課後に国語、生物、化学、数学、英語、社会・論述の教養科目を正課科目（科目名：教養演習Ⅰ、Ⅱ）として開講している。夏休み期間中などの長期休暇中には対策講座を開講して専門科目についてもサポートしている。学生寮はないが、住居家賃サポート制度があり、経済的支援を行っている。

(5)－3 進路選択に係る支援について

本学の進路支援は、学生部就職担当教員と各ゼミナール教員、事務職員が連携して行っている。毎月1回、ゼミナール教員は所属学生との進路面談を行うほか、必要に応じてその都度個別にも進路指導を行っている。大型連休や夏期休暇、冬期休暇直前等には進路希望調査を行っている。進路希望調査はゼミナール毎に面接とアンケートにより行い、アンケートは就職担当教員に提出してもらっている。アンケートは進路活動状況表にまとめ上げられ、各教職員に配布、全教職員の間で情報交換を行って全学的に学生の進路支援をしている。

平成20年度からは、社会人に必要な基礎的な態度・マナー、知識、能力を総合的に習得することを目的に、新たに進路支援Ⅰ・Ⅱ（各1単位、必修）を授業に取り入れている。

本学3階の一角には就職資料コーナーを設置し、学生に対し就職関係の資料の閲覧ができる環境を提供している。また、個々の学生に対して進路希望調査結果をもとに希望進路に合致した求人を紹介したり、各県で実施される企業合同説明会等の紹介を行ったりしている。

(5)－4 心身の健康等に係る支援について

学生の健康管理は、毎日の出欠状況を重視し、学生本人と教員間で連絡を密にとりあっている。具体的には、毎時間、講義ごとに出欠をとり、出欠状況を把握している。朝から休む学生については、欠席する理由を学校に連絡し、欠席届を提出するよう指導している。本学が小人数の短大であり、全学生に目が行き届くこと、二十歳前で親元を離れてきている県外からの学生が多いゆえに健康管理を重んじていること、専門職業人・社会人としての事前教育も重んじていることから、学生との連絡を徹底している。これにより、学生個々の健康管理は日々把握できている。また、必修科目である「進路支援Ⅰ（1年生）」、「進路

支援Ⅱ（2年生）」の時間を利用して、定期的（月1回）に面談を実施し全学生の健康管理・メンタルケアをカバーしている。また、令和4年度から、臨床心理士のカウンセリングが受けられる体制を整えている。

セクシャルハラスメントについては、学内生活で、特に女子学生が悩まないように、女性の教員および事務員を選任して相談窓口として配している。

(6) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

大分短期大学の教育研究上の目的、及び園芸科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は以下の通りである（再掲）。

本学の教育目的は、学則第1条に「高等普通教育の基礎の上にさらに広い一般教養と専門的学識を修め、深い知識と豊かな人間性を養い、もって国家及び地域社会の発展に貢献しうる社会人の育成を目的とする」と定められています。

教育目標は、「農業・園芸の領域に集積された様々な知識や技術を修得し、関連の資格、認定等を取得して、豊かな発想力と実践力を身につけ、地域産業の健全な振興・発展をはかり、健康・長寿社会の実現のために活躍する人材を育成する」ことです。

園芸科は、園芸学及び農学の教育研究を通じて農林業・環境・地域社会に広く貢献することを目的としています。本科は、生物生産・フラワーデザイン・造園・園芸療法に関する専門領域を広く学修し、国内外において活躍できる人材を養成します。

上記の教育研究上の目的を踏まえ、本学園芸科では、園芸科の特徴を活かして農学・林学全般における専門知識と身近な地域環境のあり方を考えながら、環境問題の重大さを学び、そして、農林関係分野で地域社会に貢献できる公務員（国家公務員・地方公務員）の養成を目指す。また、生産園芸（花卉・野菜・果樹）・作物・フラワー装飾・造園・ガーデニング・園芸療法・林業についての専門知識と技能等を学び、地域社会に貢献できる農林関係分野の専門技術者の養成を目指す。さらに、4年制大学に編入学し、専門分野の知識と技能等を深めることを希望する学生のために、編入学のためのサポートを行う。

園芸科では、正課教育（カリキュラムマップを参照）の他に「各種資格取得のための講座」、「公務員・就職・編入学対策講座」といった課外講座も設け、学習者が学習成果を達成するための支援を行なっている。

カリキュラムマップ(令和5年度)

□ は必修科目

学習成果 (基本カテゴリー)	1年						2年						単位数	
	前期			後期			前期			後期			必修	選択
	No.	科目名	関連する他の 学習成果	No.	科目名	関連する他の 学習成果	No.	科目名	関連する他の 学習成果	No.	科目名	関連する他の 学習成果		
1) 一般教養知識	2	英語 I		3	英語 II		5	美術・文化論		1	社会心理学	7)	2	14
	6	コミュニケーション論	8)9)10)	4	データサイエンス入門									
	14	教養演習 I		15	教養演習 II									
	19	人-農業-園芸-環境関係論	8)9)10)											
	29	基礎農業土木工学												
2) 一般教養技能	9	身体スポーツ科学 I		10	身体スポーツ科学 II		7	英会話 I		8	英会話 II		0	5
				11	情報処理									
3) 基礎的専門知識	16	園芸学総論		18	作物学					32	植物病理学		6	16
	17	造園学総論		31	土壌肥料学	5)				34	育種遺伝学			
	35	農業学		33	植物生理生態学	5)				36	応用昆虫学			
	51	造園学		43	農林業機械学									
4) 基礎的専門技能	20	園芸実験実習 I	9)10)	21	園芸実験実習 II	9)10)	64	野外調査 II	8)	71	園芸ハイイ実習		5	2
	24	野外調査 I	8)											
5) 応用的専門知識	38	ガーデニング概論		37	施設園芸学		40	花卉装飾学	3)10)	39	花卉園芸学	3)10)	2	48
	41	野菜園芸学	3)	44	アグリビジネス論		42	果樹園芸学		57	園芸療法 II	3)		
	45	畜産学		53	林産加工		47	樹木学		48	樹木医学			
	52	森林経営	3)9)	54	農林業土木		49	造園施工管理学		50	造園維持管理学			
							56	園芸療法 I		61	障害者福祉論	7)		
							58	理学療法		46	飼料作物学			
							59	作業療法	3)					
							60	介護理論						
							62	老人福祉論						
							63	香りと色彩の心理	1)3)10)					
	25	特別講義 I					26	特別講義 II						
6) 応用的専門技能	67	生花 I		55	測量		22	園芸実験実習 III	5)9)10)	23	園芸実験実習 IV	5)9)10)	4	15
				65	花卉装飾学演習	4)	69	生花 III		70	生花 IV			
				66	造園演習	6)	73	ガーデンデザイン演習 I		72	造園製図			
				68	生花 II					74	ガーデンデザイン演習 II			
	75	管理実習 I								77	海外研修	7)8)		
				76	管理実習 II	8)								
	78	自主研究												
7) 社会的基礎知識	27	進路支援 I				28	進路支援 II					2	0	
7) 社会的基礎知識 8) 多様性・協調性	12	ボランティア実践								2)		0	2	
	13	学外実習(インターンシップ)												
9) 主体性・思考力・判断力												4	0	
10) 表現力	30	園芸研究(卒業論文)												
												計	25	102
														127

履修科目ガイドライン（令和5年度）

【履修ガイドライン】

「履修ガイドライン」を参考にして2年間の在籍中、自分の希望する進路に応じた科目を履修登録し、授業を受講します。
「履修登録」とは自分が受講しようとする授業科目を届け出る手続きのことをいいます。

(A)すべての学生が履修しなければならない科目(必修科目)					単位数
園芸学総論	造園学総論	作物学	人・農業・園芸・環境関係論	野外調査 I	25
園芸実験実習 I	園芸実験実習 II	園芸実験実習 III	園芸実験実習 IV	基礎農業土木工学	
特別講義 I	特別講義 II	進路支援 I	進路支援 II	園芸研究(卒業論文)	

(B)短期大学生としての教養を身につけるために履修することが望ましい科目(選択・一般教養科目)					単位数
社会心理学	コミュニケーション論	美術・文化論	ボランティア実践	学外実習(インターシップ)	20
英語 I	英語 II	英会話 I	英会話 II	情報処理	
身体スポーツ科学 I	身体スポーツ科学 II	データサイエンス入門	海外研修		

(C)学びたい分野に応じて履修することが望ましい科目(選択・専門科目/選択・専門演習・実習科目)					単位数
○園芸学/農学分野					33
土壤肥料学	植物病理学	植物生理生態学	育種遺伝学	農薬学	
応用昆虫学	施設園芸学	ガーデニング概論	アグリビジネス論	畜産学	
花卉園芸学	野菜園芸学	果樹園芸学	農林業機械学	飼料作物学	
園芸ハイオ実習					
○花卉装飾学分野					25
花卉装飾学	花卉装飾学演習	花卉園芸学	ガーデニング概論	香りと色彩の心理	
生花 I	生花 II	生花 III	生花 IV	アグリビジネス論	
樹木学	植物生理生態学	土壤肥料学	応用昆虫学	植物病理学	
○造園学分野					30
造園施工管理学	造園維持管理学	測量	造園演習	造園製図	
ガーデニングデザイン演習 I	ガーデニングデザイン演習 II	野外調査 II	管理実習 II	ガーデニング概論	
土壤肥料学	農林業機械学	農薬学	植物病理学	応用昆虫学	
植物生理生態学	樹木学	樹木医学			
○園芸療法学分野					25
園芸療法 I	園芸療法 II	理学療法	作業療法	介護理論	
障害者福祉論	老人福祉論	香りと色彩の心理	ガーデニング概論	土壤肥料学	
ガーデニングデザイン演習 I	ガーデニングデザイン演習 II	造園維持管理学	花卉装飾学演習		
○林学分野					24
樹木学	樹木医学	造林学	森林経営	林産加工	
農林業土木	農林業機械学	野外調査 II	測量	土壤肥料学	
農薬学	植物生理生態学	管理実習 II			

卒業時の単位修得の例

- ・園芸学・農学分野を選択した場合 (A)+(B)+(C)=76単位
- ・花卉装飾学分野を選択した場合 (A)+(B)+(C)=70単位
- ・造園学分野を選択した場合 (A)+(B)+(C)=75単位
- ・園芸療法学分野を選択した場合 (A)+(B)+(C)=70単位
- ・林学分野を選択した場合 (A)+(B)+(C)=69単位

公務員・編入学・就職対策講座

夏期・冬期・春期休業期間に開講している。内容は「専門」と「教養」、「模擬試験」などである。

各種資格取得講座等について

卒業と同時に取得できる資格

【生活園芸士、園芸療法士】

大分短大は、生活園芸士と園芸療法士（全国大学実務教育協会）の称号認定校に指定されています。生活園芸士と園芸療法士の称号認定は、全国大学実務教育協会が平成14年度から認定している称号です。大分短大で開講する科目で規定の科目を履修し、認定証の交付申請をすれば称号の認定証が交付されます。

生活園芸士

園芸（ガーデニング）に関する一定の専門知識と技能を有し、自らの家庭園芸に留まらず、地域のガーデンづくりの啓蒙と普及にあたりるとともに、ガーデンコミュニティーやガーデンシティーづくりに貢献できる中程度のスペシャリストです。

園芸療法士

園芸（ガーデニング）を通じて、心身に何らかの障害を持つ人々の機能回復や症状の改善を援助し、また日常的な生活の中にあっても人々の不安や緊張の緩和を促進し、豊かな人間関係の構築と、生活の質（QOL）の向上に貢献できるスペシャリストです。

樹木医補

本学で開講されている科目のうち、所定の科目を履修、単位を修得すれば「財団法人日本緑化センター」から「樹木医補」の資格が認定されます。

樹木医とは、樹木の診断及び治療、後継樹の保護育成、樹木保護に関する知識の普及・指導を行う専門家です。樹木医になるには、財団法人日本緑化センターが実施する樹木医資格審査に合格し、樹木医として登録されることが必要です。樹木医の受験資格は、樹木の保護・管理、診断、治療等に関する業務経歴が7年以上、または「樹木医補」認定後、業務経歴が1年以上です。本学で樹木医補を取得すれば最短業務経歴1年で樹木医の受験資格が得られます。

園芸装飾技能士・造園技能士・フラワー装飾技能士（各2級と3級）

厚生労働省認定の国家資格です。園芸店や貸鉢業、造園会社、生花店に就職を希望する人は取得しておきたい資格です。農業高校等で所定の科目を修得していれば3級の受験が免除され2級の受験が可能で、例年6月～8月に試験が実施されます。春期休業期間や放課後に対策講座を実施しています。詳細はオリエンテーションなどでお知らせします。

毒物劇物取扱責任者

厚生労働省認定の国家資格です。毒物や劇物に指定されている農薬などを販売・管理監督するのに必要な資格です。JA（農業協同組合）への就職には大変有利です。夏期休業中に対策講座を開講しています。

測量士補

国土交通省認定の国家資格です。測量業者（造園会社など）に従事して測量を行います。授業の【測量】は必ず履修してください。授業のほかにプリントを配布し試験の対策しています。

土壌医（2級と3級）

一般財団法人日本土壌協会の認定している資格です。作物生育の健全性を維持するための土壌診断を通じて改善指導が行えます。1月～2月に対策講座を開講しています。

造園施工管理技士（2級学科のみ）

公園や緑地などの造園工事の専任技術者や主任技術者となり、施工計画の作成、現場の工程管理、資材等の品質管理、作業の安全管理等の業務を行うことができる技術者に与えられる国家資格です。授業の【造園学総論】【造園材料計画】【造園維持管理学】【造園施工管理学】は必ず履修してください。授業のほかにプリントを配布し試験の対策しています。

2級の実務試験受験には卒業後一定の実務経験が必要です。

危険物取扱者資格（乙種）

乙種危険物取扱者は指定の類の危険物について、取り扱いと定期点検、保安の監督ができる国家資格です。4～6月に対策講座を開講しています。

英検（2級）

実用英語技能検定は、公益財団法人日本英語検定協会が実施する英語技能の検定です。教養演習Ⅰ・Ⅱや公務員・編入学・就職対策講座において対策しています。

TOEIC

英語を母語としない者を対象とした、英語によるコミュニケーション能力を検定するための試験です。成績は点数で表されます。教養演習Ⅰ・Ⅱや公務員・編入学・就職対策講座において対策しています。

漢字検定（2級）

公益社団法人日本漢字能力検定協会が認定する資格です。身につけた漢字能力と基礎学力は編入学試験や就職・公務員試験にも役立ちます。教養演習Ⅰ・Ⅱや公務員・編入学・就職対策講座において、プリントなどを配布して対策しています。

アロマテラピー

公益社団法人日本アロマ環境協会が認定する資格で、アロマテラピーを正しく、安全に楽しむために、アロマテラピーに関する幅広い知識を身につけているかを検定する試験です。プリントなどを配布して対策しています。

色彩検定

色彩検定は、公益社団法人色彩検定協会が認定する資格で色に関する幅広い知識や技能を問う検定試験です。授業の【色彩と香りの心理】は必ず履修してください。授業のほかにプリントを配布し試験の対策をしています。

受験案内してサポートしている資格（外部講習会受講・受験）

グリーンアドバイザー

日本家庭園芸普及協会認定の資格です。園芸を楽しむ人に指導・助言ができます。園芸店や生花店への就職に有利です。夏期休業中に対策講座を開講しています。

農薬指導士

各都道府県が認定する公的資格です。研修の後、試験を受け合格すれば認定証（永年認定）が交付されます。研修・試験を受けるには学長の推薦を受ける必要があります。研修・試験は毎年2月に実施されます。申し込み方法、研修日程などを紹介しています。

介護職員初任者研修

介護職員初任者研修は、『在宅・施設を問わず、介護職として働く上で基本となる知識・技術を修得する研修』です。介護の仕事をするにあたって入門資格になります。申し込み方法、研修日程などを紹介しています。

介護福祉士実務者研修（喀痰吸引等研修含む）

実務者研修は、『より質の高い介護サービスを提供するために、実践的な知識と技術を修得する研修』です。介護職員として必要な介護過程の展開や認知症等の疾患を学び、介護の専門家としての資格になります。申し込み方法、研修日程などを紹介しています。

※本研修終了後、希望者に応じて喀痰吸引等研修（実地研修）を受講することも可能です。

玉掛け技能士

「玉掛け技能講習」を修了することにより、つり上げ荷重1トン以上のクレーン、移動式クレーン若しくはデリック、揚貨装置による玉掛作業できる資格です。申し込み方法、研修日程などを紹介しています。

刈払機取扱作業者

刈払機作業の安全を確保し、かつ、刈払機取扱作業者に対する振動障害を防止すること

等を講習の目的としています。国、地方公共団体等発注の道路維持委託業務、河川維持委託業務等の刈払い作業には本講習を受けている必要があります。造園、林業、農業の実地で役立ちます。

移動式クレーン免許

講習を修了することにより、つり上げ荷重 5 トン未満の小型移動式クレーンの運転ができる国家資格です。申し込み方法、研修日程などを紹介しています。

小規模ボイラー取扱資格

ボイラー取扱技能講習を修了することにより、法令で定められた「小規模」ボイラーを取扱・運転をすることが出来ます。申し込み方法、研修日程などを紹介しています。

バイオ技術者認定試験（中級）

バイオ技術者認定試験は、バイオ技術の進歩に対応しての総合学力を認定する試験です。毎年1年に1回、初級（高校卒程度）は7月、中級（短大卒程度）・上級（大学卒業程度）は12月に開催されます。バイオ技術に関する学力・知識などのレベルの向上に役立つほか、取得した資格はバイオ技術に関する就職試験に有利です。申し込み方法、研修日程などを紹介しています。

3. 財務情報

前年度の財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書、監事の監査報告書

平松学園ホームページにて公開している。本学ホームページ上（トップページ）から閲覧が可能（リンクしています）。

4. 上記以外の情報の公表

（1）教育研究上の情報

①教育条件 教員一人当たり学生数

（令和5年5月1日）

学生数（在籍者数） (a)	専任教員数 (b)	教員一人当たり学生数 (a/b)
58	9	6.4

注) 専任教員数には学長（1名）を含む

②教育条件 収容定員充足率（再掲）

（令和5年5月1日現在）

学科名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
園芸科	入学定員	40	40	40	40	40	40	40	40
	入学者数	34	33	48	38	41	46	51	51
	入学定員充足率(%)	85	82	120	95	102	115	127	127
	収容定員	80	80	80	80	80	80	80	80
	在籍者数	71	66	81	85	79	86	97	100
	収容定員充足率(%)	88	82	101	106	99	107	121	125

学科名		1年度	2年度	3年度	4年度	5年度			
園芸科	入学定員	40	40	40	40	40			
	入学者数	40	42	30	34	24			
	入学定員充足率(%)	100	105	75	85	60			
	収容定員	80	80	80	80	80			
	在籍者数	92	82	70	58	52			
	収容定員充足率(%)	115	102	87	72	65			

*充足率：小数点以下第1位切り捨て

③教育条件 年齢別教員数（再掲）

任教員の年齢別教員数

専任教員の年齢別教員数

（令和5年5月1日現在）

教員数	年齢ごとの専任教員数（学長を含む）						平均年齢
	70以上	60～ 69	50～ 59	40～ 49	30～ 39	29以下	
合計人数 （9人）	1	2	2	2	2	0	53.1
割合（％）	11.1	22.2	22.2	22.2	22.2	0	100

④教育条件 職階別教員数（再掲）

専任教員等の職階別教員数

（令和5年5月1日現在）

教員数	性別ごとの専任教員数					計
	学長	教授	准教授	助教	計	
男	1	3	1	3	7	9
女	0	1	0	0	2	
計	1	4	1	3	9	

⑤教育内容 専任教員数と非常勤教員数の比率

（令和5年5月1日）

専任教員数 （a）	非常勤教員数 （b）	専任教員数／非常勤教員数 （a/b）
9	11	0.8

注）専任教員数には学長を含む

⑥教育内容 学位授与数及び授与率

学科名		入学年度					
		25 年度	26 年度	27 年度	28 年度		
園 芸 科	入学者数(a)	48	38	41	46		
	学位授与数(b)	46	38	40	45		
	学位授与率 % (b) / (a) × 100	95.8	100	97.6	97.8		

学科名		入学年度						
		29 年度	30 年度	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
園 芸 科	入学者数(a)	51	51	40	42	30	24	34
	学位授与数(b)	48	51	40	40	28	-	-
	学位授与率 % (b) / (a) × 100	94.1	100	100	95.2	93.3	-	-

* 学位授与率：小数点第1位四捨五入

⑦教育内容 就職進路先の情報

令和4年度卒業生の進路

(令和5年5月1日現在)

項目	人数	備考			
卒業生	28	男14、女14			
令和3年度入学者	30	男16、女14			
就職希望者	13	男7、女6			
就職者	13	男7、女6			
		民間企業	公務員等	2	国家大卒一般職(林業)、大分県教育委員会(臨時)
			11	【生花・ブライダル関連企業】(株)美咲、葵会館、	
				【造園関連企業】(株)池部造園、曾根造園	
				【医療・福祉施設】こどもデイサービスみつばち、(社福)みのり村、	
				【JA等】JA佐賀、JA熊本共済	
				【園芸・種苗関連企業】キクチ種苗、CuoreFarm(株)	
【農業生産法人】太平やさい(株)、					
【農業自営】					
【その他】					
進学者	14	男7、女7			
4年制大学編入学	14	島根大学、広島大学、愛媛大学、佐賀大学、鳥取大学、信州大学			
	0				
その他進学	0				
就職・進学しない者	1				

⑧ 学生の状況 入学者推移

(令和5年5月1日現在)

学科名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
園芸科	入学定員	40	40	40	40	40	40	40	40
	入学者数	34	33	48	38	41	46	51	51
	入学定員充足率(%)	85	82	120	95	102	115	127	127

学科名		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度			
園芸科	入学定員	40	40	40	40	40			
	入学者数	40	42	30	24	34			
	入学定員充足率(%)	100	105	75	60	85			

* 充足率：小数点以下第1位切り捨て

⑨ 退学・除籍者数等

園芸科の退学・除籍者数等

(令和5年3月31日現在)

入学年度	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
学生数							
退学者数	0	1	1	1	4	1	1
除籍者数	0	0	0	0	0	0	0

入学年度	平成	平成	平成	平成	平成	平成	令和
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	1年度
学生数							
退学者数	2	0	0	1	2	0	0
(内、1年次修了者数)	1	0	0	0	1	0	0
除籍者数	0	0	0	0	0	0	0

入学年度	29年度	30年度	1年度	2年度	3年度	4年度	
	学生数						
退学者数	2	0	0	2	2	0	
(内、1年次修了者数)	1	0	0	1	0	0	
除籍者数	0	0	0	0	0	0	

⑩ 中退率

園芸科の中退率

(令和5年3月31日現在)

入学年度 学生数	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
入学者数(a)	43	28	51	46	40	34	33
退学者数(b) ^{注)}	0	1	1	1	4	1	1
中退率%(b/a×100)	0	3.6	2.0	2.2	10.0	2.9	3.0

入学年度 学生数	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 1 年度
入学者数(a)	48	38	41	46	51	51	40
退学者数(b) ^{注)}	1	0	0	1	1	0	0
中退率%(b/a×100)	2.1	0	0	2.2	2.0	0	0

入学年度 学生数	2 年度	3 年度	4 年度
入学者数(a)	42	40	24
退学者数(b) ^{注)}	1	2	0
中退率%(b/a×100)	2.4	5.0	0

注)退学者数(b)には1年次修了者数は含まない

⑪ 留年者数

園芸科の留年者数

(令和5年3月31日現在)

入学年度 学生数	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
留年者数	0	1	0	0	0	0	0	0

入学年度 学生数	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	令和 1 年度	令和 2 年度	令和 3 年度
留年者数	0	0	0	1	1	0	0	0

入学年度 学生数	平成 4 年度							
-------------	---------------	--	--	--	--	--	--	--

留年者数	0								
------	---	--	--	--	--	--	--	--	--

⑫ 社会人学生数

園芸科の社会人の受け入れ状況

(平成 18 年度～令和 5 年度)

種別	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
社会人数	2	0	4	4	1	1	2	2	0

種別	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 1 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
社会人数	0	0	0	0	2	0	0	0	0

種別	令和 5 年度								
社会人数	0								

* 社会人：本学の社会人入試で受験し、入学し在籍者しているもの

⑬ 留学生数及び海外派遣学生数

留学生数及び海外派遣学生数

(平成 18 年度～令和 3 年度)

種別	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
留学生数 (人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
海外派遣学生数 (人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0

種別	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 1 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
留学生数 (人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
海外派遣学生数 (人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0

*留学生を受け入れるための特別な制度はない

*海外派遣制度はない

⑭海外の協定相手校

海外の協定校はない。

⑮社会貢献活動

・園芸に関する公開講座

地域社会に向けてグリーンアカデミーと称した公開講座を年 12 回開講している。グリーンアカデミーは、昭和 51 年 6 月に園芸科開設 10 周年を記念する行事として始まった園芸やガーデニングを学ぶ地域社会への公開講座である。毎月 1 回第 3 土曜日に開講している。現在は新型コロナウイルスのため講座を休止している。

・園芸相談

電話などによる園芸相談に応じている。グリーンアカデミー受講者や一般の方、また NHK 大分放送局などからの電話や直接の持ち込みなどによる園芸相談に答えている。

・地元紙・大分合同新聞への園芸記事の掲載

2 週間に 1 回掲載、園芸に関するアドバイス、園芸普及が目的である。

・地元テレビ・ラジオ出演、取材対応

報道関係の要請に応じて対応している。

・地域社会の行政、商工業、教育機関及び文化団体等と交流活動

大分県赤十字社や献血センター、大分赤十字病院、日本フラワーデザイナー協会大分県支部などが実施する講習会やイベントに参加している。特に、フラワーデザインコンテストなどの参加は、プロのフローリストと関わり、現場を体験することにより、就職や人間形成において大変役立っている。

・大分刑務所 職業訓練講座への教員派遣（平成 24 年～）

⑯大学間連携（令和 5 年 5 月 1 日現在）

・おおいた地域連携プラットフォームに参画し、地方創生に関する活動を行なっている。

⑰産官学連携（令和 5 年 5 月 1 日現在）

・おおいた地域連携プラットフォームに参画し、地方創生に関する活動を行なっている。

・「上野ヶ丘墓地公園苗圃活用に関する協定」 平成 25 年 7 月 18 日締結

大分短期大学と大分市との協定

（目的）大分市が進める個性・魅力あふれる都市づくりの実現と大分短期大学の建学の精神に基づく教育・研究活動の効果的な推進・展開を図り、大分市の都市計画行政の執行と学術の発展に寄与することを目的とする。

・「佐賀関地域里山再生振興協議会」 平成 25 年 7 月 17 日発足

協議会委員（機関）：大分短期大学、NPO さがのせきまちづくり協議会、

ユロキヤ醤油株式会社、大分市、大分県

(目的) 平成 25 年度「大分県新たな森林づくり事業」に基づく、産・官・学連携による「新たな育林技術等研究開発事業」に係る、大分市佐賀関地域における適正な運用を図るため、地域資源（ヤブツバキ）を活用した里山再生を目指し、「佐賀関地域里山再生振興協議会」を設置。平成 29 年度からは「大分市佐賀関地域里山再生振興協議会」を発展的に発足し、活動している。